



広報



Public-relations Wakasa

Contents

特集「地域づくり」	… 2
まちの話題	… 6
町長随筆、クイズ	…10
3歳で～す、文芸	…11
情報BOX	…12
すまいる	…15
シリーズ「キラリ保育」	…16
暮らしのカレンダー	…18

3

2011
No. 71

冬晴れの朝に (みそみ保育所)

黄色いハンカチ

持田区

一人暮らし高齢者の安否確認

〜持ちつ持たれつの持田〜

地域は自分たちで守る

持田区の一人暮らし高齢者（65歳以上）世帯は6戸で、全世帯に占める割合は27%（町全体8%）と町内で最も高い数値となっています。

また、集落内の家族構成を見ると、今後、一人暮らしの高齢者が増加することが心配されています。

そこで、持田区では、一人暮らしでも安心して安全に暮らせるよう、「黄色いハンカチ」を用いて安否を確認する運動に取り組みはじめました。

持田区	人口	70人
	世帯	22戸
	65歳以上高齢化率	31%
	一人暮らし高齢者世帯	6戸
（平成23年1月現在）		



▲玄関先に掲げられる黄色いハンカチ



▼見回り隊が一人暮らし宅を訪問

この取り組みは、お年寄りが元気で暮らしている証として、朝起きたら各自が玄関先に「黄色いハンカチ」を掲げ、夕方には片付け、これを老人会の役員で編成する「見回り隊」がハンカチの状態を見て安否を確認するもの。

一人暮らしのお年寄りにとっては、「地域の人に見守られている」

老人会「見回り隊」が確認

という安心感が生まれます。集落内には、ふれあいの機会が増え、地域の絆が深まっていくことも期待されています。

近年、高齢者を狙った悪質な訪問販売も考えられることから一人暮らし高齢者世帯だけではなく、集落内の全世帯でこの運動に取り組んでいます。

ハンカチ運動



▲ハンカチは老人会が手作り

黄色は・・・

世界で大切にされている色。
イギリスでは、身を守るための色として生まれました。
愛、信頼、尊敬を表す色として世界に広がってきました。



持田区集落振興委員長
竹内 収平さん

この運動は、映画「幸福の黄色いハンカチ」のラストシーンをヒントにしたものです。

このハンカチ運動をきっかけに「ふれあいサロン」など「ぬくもりのある活動」を広げていければと思っています。

今後、集落のキーマンとなるのは「元気なお年寄り」です。

子ども、若者もどのように取り込んで、また、受け継いでいってもらうかが課題です。

菜の花畑（安賀里）

地域しあわせ応援モデル事業を活用した取り組み

持田区の「黄色いハンカチ運動」は、若狭町地域しあわせ応援モデル事業補助金を活用しています。

この補助金は、住民や地域が抱える課題を解決する取り組みや地域資源を活かしその魅力を高める事業の準備、調査、試行などに対して、交付されるもので、いわゆるソフト事業が補助対象となっています。

補助限度額は20万円。材料費、会議費、資料費、備品購入費などの経費の80%が補助されるものです。

住民主体のまちづくりを目指して

勤務形態の多様化や若者の地域離れで地域の共同や担い手が不足し、集落の自治機能が低下しています。

さらに、共働き世帯や高齢者世帯の増加によって子育てや介護など身近な課題も多くなってきています。

また、国の補助金、税財源、交付金の一体改革によって地方の財政が一段と厳しくなっています。

このようなことから地域の実情を把握し、地域の個性を活かした自主的、主体的なまちづくりを自らが決定して進めるときが来ています。

きめ細かいサービス

住民が望むきめ細かなサービスの提供、子どもや高齢者を狙った犯罪の防止、災害時の対応などは、行政と地域、集落が対等の立場で協力して共に働くことが必要ではないでしょうか。



子どもの健全育成・

高齢者の生きがい

子どもたちの健全育成や高齢者の生きがいづくり、移動手段の確保や介護などは地域に住む皆さんのほうが実情にあった効果的なサービスの提供ができるのではないのでしょうか。



これからの地域づくり

地域が元気になり、

誇りが高まる

住民と行政が協力し合う地域づくりは、地域の人たち、団体、行政が元気になり、住民の生きがいづくりや地域への誇りが高まり、やがては、住みやすい地域となるのではないのでしょうか。



次の世代へ地域の担い手育成

手育成

地域での助け合いや住む人の熱い思いは、子どもたちに良い影響をもたらし、地域の担い手の育成になるのではないのでしょうか。



地域づくりに参画し、住みよいまちを創りましょう

▼地域しあわせ応援モデル事業

関区



町指定天然記念物「楊貴妃桜^{ようきび}」をPRし、区の活性化を図る。
開花時期にあわせ、ライトアップやもてなしなどを実施。
桜が高齢化しており、適切な管理方法が分からないので、専門家を招き、区民そろって管理方法を学ぶ。

町内産の農産物などを加工販売し、地産地消を推進、安全・安心な食を提供する。

かたくなならない白餅、ゴーヤーやハヤト瓜の粕漬けなどの商品開発にも取り組み、イベントなどを通じて、販路拡大を目指す。

かみなか味の会



末野クラブ



地元米かまど炊きご飯や地元食材メニューを須恵野焼きで提供するレストランを開店。

また、宿泊農業体験で田舎暮らしを味わってもらう。

歴史ある須恵野焼きや空き家を活用し、伝統工芸のPRや地域の活性化を図る。

ほたるの生息地を保護し、人工飼育に取り組む。また、古民家を利用した「ほたる会館」を開き、水環境の大切さを伝える。

地元小学生や他の集落などとも交流しながら、ほたるが舞う、水のきれいな熊川宿のPRを図る。

熊川宿ほたる生息研究会



地域資源を活かして、
まちの魅力を高める

まわりの話題

※広報紙に「あなた」の写真が写って
いましたらご連絡ください。
写真をさしあげます。
(企画情報課 TEL45-9110)



わんぱく隊 最優秀賞 (1/20)

若狭三方五湖観光協会が第6回 JTB 交流文化賞の最優秀賞を受賞しました。この賞は、旅行会社の JTB が地域の魅力を活かし活性化に取り組む団体などを表彰するもので、全国から寄せられた 52 の取り組みの中から同協会の『若狭三方五湖わんぱく隊』が最高の賞に輝きました。

同協会は、1990 年から地域の漁業者と協力し、県内外の小中学生などの漁業体験や漁家宿泊などを受け入れており、昨年は台湾の高校生の修学旅行の誘致にも成功。

行政や外部主導の取り組みではなく、地域住民によって運営され、採算性があり、地域への経済効果をもたらしている点が高く評価されました。



▲大敷網漁体験



▲模擬文化財搬出訓練



文化財を災害から守る (1/23)

海士坂区の大蔵寺で文化財火災防ぎょ訓練が行われました。大蔵寺は、県無形民俗文化財指定の「海士坂の送り盆」の備品などが保管されているお寺。

訓練では、海士坂区民や婦人消防隊、消防団員など約 50 人が参加し、模擬文化財搬出訓練や初期消火、放水が行われました。

訓練を見守った町文化財保護審議会の亀井浩会長は「今後も意識を新たに、文化財を災害から守っていかなければならない」と話していました。

この日は、相田区の伝芳院でも同様の訓練が実施されました。



山内カブラが給食に (1/25)

古くから伝わるふるさとの味を子どもたちに知ってもらおうと、鳥羽小学校で地域の伝統野菜「山内カブラ」を使った給食が実施されました。

この日の献立は、山内カブラのみそ汁など 3 品。山内カブラは、サクサクした食感と香り高いのが特徴で、50 年ほど前から作られなくなっていたものを昨年、町が集落の方に呼びかけ生産が復活。

山内カブラを味わった児童は「サクサクして甘くておいしい」と話し、ふるさとの味を発見した様子。また、生産者の一人、宇野絹枝さんは「形は不恰好だが味や香りがとてもよい。雪の下で甘みも増している」と話していました。



▲山内カブラ給食を味わう児童



木の良さ、知って (1/27)

明倫小学校で、県産材の杉を使った木工教室が開かれました。この教室は、木の良さ、あたたかみを知ってもらい、森を守る心を育んでもらうため、県二州農林部が毎年実施しているもの。

はじめに、県の担当者が「木は山崩れや洪水を防ぐ」、「二酸化炭素を吸収してくれる」など森の働きについて説明。続いて、県の担当者の指導で杉の板とのかざりやくぎを使い、低学年は鉛筆たて、高学年は本たてを作りました。

本たて作りに挑戦した児童は「のかざりで切るのが難しかった。これからも木を大切にしたい」と話していました。



▲鉛筆たてを作る児童



▲エコ改修について発表する生徒



省エネ校舎で全国会議 (1/28)

「学校エコ改修と環境教育事業」の実施校が取り組みを報告する環境省など主催の全国会議が三方中学校で行われました。

この会議は、これまで東京で開かれていましたが省エネ校舎を実感するため、今回初めて現地会場で実施。全国から教育や建築関係者ら約100人が集いました。

会議では、三方中学生徒会エコプロジェクトチームが自然排気窓などを利用し冷房器具を設置していない点、間伐材などを燃料にした環境に優しいペレットストーブでの暖房、自然との関わりや熱のメカニズムを体感する環境学習を発表しました。

会議の参加校からは緑化ルーバーや蒸発熱利用の報告も行われ、今後の取り組みに結び付けていました。



集中力高めて (1/30)

若狭町子ども会育成連絡協議会が主催して、三方ショッピングセンターレピアで第6回若狭町子どもかるた大会が開かれました。

大会は、百人一首かるたを通じて集中力を養い、子ども同士の親睦を深めるもので、1チーム3人で編成された56チームが参加。

参加した子どもたちは、読み手が読む句に集中して素早い手つきで札を取り合いました。

＜結果（優勝）＞Aブロック＝南前川A、Bブロック＝上野、Cブロック＝鳥浜A、Dブロック＝気山・上瀬D

また、2月6日に開催された第36回嶺南地方子ども会かるた大会では、町内のチームが上位を独占しました。

＜結果＞優勝＝気山・上瀬子ども会、準優勝＝朝霧子ども会、3位＝南前川子ども会



▲札を取り合う参加者



コウノトリ舞う里 (2/1)

若狭三方縄文博物館で環境企画展「三方五湖と周辺の生物多様性～舞い降りた使者たち～」が始まりました。3月21日まで。

三方五湖がラムサール条約湿地に登録されて5周年になるのを記念して、自然の豊かさの指標といわれるコウノトリ（国の特別天然記念物）の生態や歴史を紹介しながら自然再生への道筋を考えるもの。

若狭町に飛来したコウノトリやコハクチョウの写真約100点をはじめ、コウノトリのはく製や昭和48年当時の映像を見ることができます。

博物館では、「コウノトリを通じて生き物や人間が住みやすい自然とはどういう環境かを考えるきっかけになれば」と来館を呼びかけています。

このほか、水田魚道や子どもたちの環境学習発表、冬水田んぼのパネルも展示されています。



▲コウノトリなどの展示写真



▲古墳模型と歴史文化館サポーターの皆さん



古墳を身近に感じて (2/1)

歴史文化館サポーターの会が制作した古墳の模型が同館ホールに常設展示されました。

この模型は、地域の文化財を知ってもらい、古代への思いを深めてもらおうと、サポーター9人が2か月余りかけて完成させたもの。

脇袋の「上ノ塚古墳」（国指定史跡）など3基の古墳が、発泡スチロールや紙粘土、アクリル絵の具などを使って200分の1の縮尺で復元されました。

模型作りに取り組んだサポーターは、「色、形、大きさにこだわり、ていねいに作った。古墳に興味を持ってもらいたい」と話していました。

この日は、古墳やまが玉をかたどったサポーター手作りのクッキーが来館者に配られました。



ほっとする味・うまみ (2/4)

若狭町まちづくり講座が中央公民館で開かれました。この講座は、住民主体のまちづくりに役立てようと各界の専門家を招いて開催しているもので今回は食育・文化がテーマ。

講座では、祖父が熊川出身の縁で若狭町ふるさと大使を務める京都の老舗料亭「菊乃井」代表取締役村田吉弘さんが「日本料理とは」と題して講演。

村田さんは、「日本料理はこんぶ、かつおに代表される"うまみ"で構成されている。うまみは心の落ち着きをもたらす作用がある。日本の食文化に誇りを持って」と食の大切さを語りました。

会場では、村田さんがこんぶやかつおから取ったダシの試飲があり、来場者はプロが作るうまみを味わっていました。



▲かつおを使ってダシの説明する村田さん(右)



笑顔であいさつ、個性を尊重 (2/6)

パレア若狭で平成 22 年度人権意識高揚大会が開かれました。人権が尊重される家庭、学校、地域づくりをめざして、人権意識の高まりと広がりを目指して若狭町人権教育推進協議会などが主催。

大会では、町内小中学生や一般の方から応募のあった人権メッセージ 17 点の表彰が行われた後、「極道の妻たち」の著作で知られる作家・家田莊子さんが「一緒に生きていこう～あなたの愛を求めています～」と題して講演。

家田さんは「笑顔であいさつすると互いに幸せを感じられる」「比較して違いを見つけると、差別や偏見の対象となる。個性を尊重し、長けているところ、そうでないところと考えれば助け合えるようになる。一緒に生きていくことが大切」とやさしい口調で語りました。



▲表彰を受ける受賞者と講演する家田さん(右上)



未来に向け、強く前進 (2/9)



▲誓いの言葉を述べる生徒

町内の中学 2 年生 169 人が参加して、パレア若狭で平成 22 年度若狭町立志式が行われました。

この式は、数え年の 15 歳が昔の男子の成人を表す「元服」などを行った年齢であったことから、心身ともに大きく成長する時期に自分を見つめ直し、将来への志を立てるもの。

式典では、立志者が「生活を楽しみ柔軟に取り組む。何事にも挑戦する」など将来への決意を込めた「誓いの言葉」を力強く唱和しました。

式典後、上黒田出身で三方中学校岬分校教諭の澤信也さんが「アフリカでの生活」と題して記念講演。青年海外協力隊員としてナミビア共和国で教育指導にあたった経験談を話し、「チャンスをかかして、あきらめずにがんばってほしい」と激励の言葉を贈りました。



竹刀に気合いを込めて (2/11)



▲気合いを込めて打ち合う参加者

町と町剣道連盟が主催して、第 6 回若狭町少年剣道大会が三方体育館で行われました。選手たちは日頃の練習の成果を竹刀に込めて、気合の入った技を繰り出していました。

《試合結果》①優勝、②次勝、③ 3 位

◎団体戦◇男子①向笠、②西部 A、③気山、剣誠館
◇女子①きらやま A、②西部、③気山 B、剣誠館

◎個人戦◇6 年男子①中西諒、②田辺祐斗、③瀬尾成一、千田恭大◇5・6 年女子①鈴木里香子、②二本松咲季、③西村真由、今井未来◇5 年男子①安藤舜祐、②清水海斗、③岩崎日富、井口翔太◇4 年男子①田辺政伸、②赤尾喜一、③竹本昌平、川上立城◇4 年女子①池田二千花、②田辺有羽、③久保渚、中西優佳◇3 年以下男女混合①西村健、②前田颯斗、③竹本脩二、坪内大河